

福岡市議会議員(城南区)高山博光レポート

発行所

高山博光事務所

〒814-0104

福岡市城南区別府3丁目

2番5号 三角ビル3F

TEL (092) 822-1188

FAX (092) 844-0456

ふくおか市議会ニュース

「官僚制度温存の為」官僚機構の代表、警察・検察権力と、
「政権維持」を狙う麻生総理が手を組んで小沢氏を葬った！！

「小沢氏秘書逮捕事件についての私感」

いま最も大切な話!!

福岡市議会議員 高山博光
(城南区)

(1)

- 諸悪の根源は企業献金だと批判され企業献金を無くす為に税金から政党に助成金を出す制度を作った(1995年)。以降毎年約320億円を政党助成金として税金より払っている。(共産党のみ受取拒否)
- 政党助成法が施行後、しばらく間を置いて小淵内閣になると、「政治家個人」に対するものだけを禁止し「政党」には可能とした。(2000年) こうやって企業献金禁止は骨抜きにされた。
- そこで各政党は全国の議員の数だけの政党の支部を設けた。地方議員まで政党の支部長に就任した。(現在自民党は全国に7706支部が在る)
- 党支部長へ集った企業献金は、議員個人の資金管理団体等に寄付し、議員個人が自由に使える。
- 千葉県知事に無所属で当選した森田健作氏もそれまでの自民党東京都内の支部長をしていて1.6億円の政治献金を集めているのが問題になっている。

● 国民の税金から毎年約320億円(1国会議員当たり約4500万円)を政党に助成し、企業献金も「禁止」を骨抜きにし貰えるようにしている!!

- 企業献金は企業の利益にならない処には献金しない。従って政権党が集金力は抜群だ。小沢氏は地元の岩手県辺りは強くても、全国的には自民党王国だ。
- 麻生総理が支部長の自民党支部の収支報告書等を合算してみると、07年度3.8億円の収入だ。因みに07年の企業献金実績は自民党168億円、民主党18億円だ。
- 政治資金規制法は「寄付行為者」を収支報告書に記載する事を求めているが、逮捕された小沢元代表秘書は、献金の「寄付行為者」である「新政治問題研究会」と「未来産業研究会」の名称を正確に記載していた。
- 検察の主張は、2つの政治団体からの献金は実質は西松建設からの拠出であると検察当局が認定し、収支報告書に「西松建設」の名称を記載しなかったことが「虚偽記載に該当する」と主張している。
- 小沢氏は「西松建設の献金と解っていたら、初めから自分の政党支部で受理していた。実体のある立派な政治団体だからこそ資金管理団体で受納した。従って西松建設からの献金と言うのなら修正申告をすれば済む話ではないか」と言っている。
- 過去に検察が摘発した事例はいずれも収支報告書への無記載の「裏献金」で、規模が1億円以上である。
- 小沢氏の資金管理団体は、全ての献金を記載し、しかも3500万円であり、検察の内部基準1億円を大幅に下回っている。過去の例から見ると逮捕される理由が無い。
- 政治資金収支報告書への「虚偽記載容疑の形式犯」は、元来微罪(起訴猶予)が通常であり、逮捕や起訴は在り得なかった。

続 (前頁より読んで下さい)

(2)

- 例えば直近の、04年の日本歯科政治連盟が自民党旧橋本派団体へ1億円の闇献金をした事件も「記載を全くしない悪質」な「闇献金」なのに、村岡元官房長官1人の在宅起訴で終わり。現金授受の場に居た橋本龍太郎氏、青木幹雄氏は不起訴、野中広務氏は起訴猶予。この事件では旧橋本派以外にも幅広く献金がばら撒かれ、三千万円の迂回献金をもらった山崎拓氏も不起訴で終わった。検察審査会は山崎氏は「起訴相当」としたが、再度不起訴で終結している。
- 西松建設のダミーと検察が称する(小沢氏と同じ)2つの政治団体から規定額以上のパーティー券を買ってもらった、二階俊博氏(自民党)は不起訴。(但し西松建設社長のみは起訴)著しく公正さを欠いている。
- しかも検察は捜査を政争の具にしない鉄則を守ってきた。しかし今回の小沢氏の事件は意図的に選挙直前を狙ったとしか言いようが無い。

- 麻生総理は、官僚の頂点である内閣官房副長官に元警察庁長官の漆間巖氏を置いた。麻生～漆間コンビによって、政権交代の可能性が大きい総選挙の直前に、野党第一党党首の秘書を逮捕した。今回の逮捕は小沢代表失脚を狙った政治謀略逮捕以外の何物でもない。
- 霞ヶ関権力の頂点に財務省と警察・検察が位置する。小沢氏への攻撃は役人の頂点である漆間氏の指揮の下での警察・検察権力を総結集し、官僚利権根絶に対する強烈な「官僚制温存」の為の戦いであり、麻生総理は「政権維持の為」警察・検察権力と組んだにすぎぬ。

- 総選挙を間近にして、野党第1党党首を辞任に追い込むという重大な政治的影響を生じさせたことに検察は説明責任があるのではないか。

是非お読み下さい!!

転載自由

- 「小沢氏に関連する悪質なイメージ操作報道」「小沢辞任誘導報道」を展開し、「小沢氏は辞任せざるを得ない」と根拠も示さずに官僚の見えざるのリークに呼応した。小沢氏の革新性については触れようともしていない。近年のマスコミは権力の追従メディアに化したとしか思えない。
- 民主党政権の誕生の可能性が高まる中で、官僚は小沢氏の辣腕に官僚制崩壊への強い危機感を感じている。民主党でも小沢氏以外は怖くないのだ。小沢氏の実力、経験、官僚のコントロール力、全てに辣腕の「小沢氏」だけを怖れている。
- 小沢氏は局長級への政治任用や天下りの禁止、企業献金の全面禁止、対米隷属からの脱却、裁判員制度への反対等、政治主導の根本的改革を主張している。
- しかし本来、選挙の洗礼を受けた政治家が、官僚を使うのが当たり前の事である。各省庁間の人事の交流も無ければ、大臣に人事権は無く、官僚が省内での人事を決め、官僚主導国家であり、官僚天国であり、省益追求国家と墮してきた。
- 54年間、自民党政権が続いた。その結果としての教育、財政、農業、外交、社会保障制度等全てが崩壊寸前に至っている。この責任は自民党に在る。自民党はこのまま二流化した官僚に頼って沈没するのか、政治家群としての指導力を発揮、再生出来るかの岐路に立っている。
- 麻生総理は国家権力を以って、次の首相に一番近い男を葬った。日本の政治の質をこれ程落とした総理は歴史上最大の失政を犯しているのではないのか。
- 今後、選挙直前に民主党のスキャンダルを更に追加、小出し(障害者郵便割引制度事件、鳩山代表政治献金事件等出してきた)にして現政権の維持を計ろうとするだろう。
- 更に7月14日 西松建設社長を有罪で結審させ、即小沢氏秘書を法廷に引っ張り出して、投票日前に、民主党のイメージを落とすためのマスコミキャンペーンを展開させ、その渦中に投票日を設けるだろう。
- 今回の検察捜査にはどうしても無理が残る。「負の国策捜査」として歴史に残ることだろう。市民はしっかりと物事を見つめて欲しい。